



©2013 kobe city No.R3-006

西区サポセン通信 Vol.9

「コロナ禍での多職種による地域連携」 神戸市西区医師会 理事 厚井 薫 氏



いったん沈静化したように思われた新型コロナウイルス感染者数も、新たな変異株や感染者の若年化により、再び増加してきております。6月30日現在、全世界での感染者数は約1億8200万人、死亡者数393万人、本邦でも各々80万人、14800人と予断を許さない状態です。

一方、我が国のワクチン接種率も一回接種者が全人口の23%となり、WHOの定義している高中所得国の平均値まで増えつつありますが、供給の大幅な減少もあり、中高年以下の接種は政府の予測よりはるかに遅くなることが考えられます。

また、オリンピック、パラリンピックの開催が近づく中、単一競技で行われたバブル方式で感染対策は成功しているという説明も、規模が全く違い、分散した施設で2週間以上かけて行われるのに本当に感染対策は万全なのか心配でなりません。国民の安全、安心のためにも、もう少し正確な科学的根拠を公表すべきだと考えます。

コロナ禍の中、自宅に閉じこもりがちな高齢者を襲うコロナフレイルが蔓延してきているのも事実です。外出頻度の低下や会話量の減少などから下肢筋力低下、転倒、認知症状の進行などの悪循環が考えられます。



WHOや政府の発出する公衆衛生サーベイランスでは診断基準や検査法は詳しく書かれていますが、医療施設、プライマリケア施設や、個人住居などの閉鎖的環境での対策が不十分であり、施設内での感染制御は初期の段階では全く機能していなかったように思われました。

この時期、介護の最前線で働かれている医療機関、薬剤師、訪問看護師、介護職の皆様には大変なご心労の中、激務を行っておられると拝察いたします。介護保険制度の制約の中、今まで経験したことがない世界的パンデミックの荒波を受けて介護ケアに難渋する患者様も多数経験されていると思いますが、それらの問題は多職種が連携して処理するのが最も早く問題解決に至る道筋になると考えます。

幸い、西区医療介護サポートセンターの設立によって多職種の交流が図られ、数多くの有意義な知見が得られております。治療・ケアの質の向上、患者・家族の安心感に繋がり、ひいては自身の成長にも繋がるのが期待されます。今こそサポートセンターを積極的に活用して多職種によるone teamでこの困難な状況を打破すべき時です。

最後に元気な高齢者として健康を維持してもらうために感染予防を徹底しながら活動量を増やすことも重要です。ワクチン接種や治療薬の確立と同様に高齢者の日常生活全般に十分に気を配りながら、QOLの維持向上が達成できる健康サポートを続けていくことが今後も不可欠と考えます。



「ソーシャルワークのあいまいさを具体化するために」 西区病院連携連絡会 神戸白鷺病院 相談室室長 沖田 修司 氏



いつも地域のみなさまにはお世話になって、ありがとうございます。

当院の医療・福祉相談室には6人の精神保健福祉士がおり、今回は当事者の方やみなさまと関わる時に大切にしている10個のことをお伝えしようと思います。

私たちは病院の中にいますが、医療職ではなく福祉の相談専門職です。法律や制度、地域の情報などをお伝えしたり、日々の面談で目的を持ってコミュニケーションを図ります。一緒に出かけて買い物をしたり、家を探したりもします。生活のしづらさを抱える方の現実的な課題が少し軽くなるようお手伝いをさせていただいています。病院の中だけでは解決できませんのでみなさまの知恵をお借りしながら、点と点ができるだけ線になるように地図を描きます。先回りせず、悩むことや立ち止まることも一緒に、そして自分で決めたことに責任が持てる喜びを感じてもらえたらと考えています。人生はずっと続いていますから、一時の退院が目的にならないように注意しています。



1. 責任より覚悟を決めます。入院したら安心ではなく、そこから退院後に再入院しないためにどう支えていくかを真剣に考えます。

2. 複数の目、新しい目、チームの力で悩みます。それぞれ担当はいますが1人の考えで動くのではなく、色んな人や多職種チームで考えます。

3. 正しいこと（社会規範）ではなく、その人に本当に必要なことをみんなで話し合って動きます。

4. 誰が悪いという犯人探しは何の解決策にもならないのでしません。

5. 私たちが勝手に限界を決めずに、ご本人が決める可能性を信じます。

6. サポートをする資源が無ければ、諦めるのではなく、どうしたら可能になるか創ることを楽しむ努力をします。

7. 小さな段階をあきらめずに一緒に行います。成功するまでやると失敗にならないことを継続できるよう支援します。

8. どんな形でも見守り、孤独にしない体制を作ります。本人はもちろん、家族も支援の輪に入れ、誰もおいていかないようにします。

9. そばにいてだけで安心という不安に寄る「余裕」を大切にします。

10. 何をするかではなく、いかにその場にいるか。目に見えることだけにとらわれないよう心がけます。



実際にはなかなか難しいことばかりです。これらを実践するために相談室内では「嘘をつかない」「裏切らない」ということを大切にするよう話しています。実は私たち支援者も大いに葛藤します。専門職だからこそ抱え込まず「私も悩んでいるのです。どう思いますか？助けてください！」と言える環境が必要なのです。

色んな場所でのみなさまとの出会いを大切にして「自由に話し合うこと」もこころの治療にもリカバリーにもなります。対話の可能性は無限大だと思うのです。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。



■第10回ワールド・カフェ♪

(多職種によるグループワークを活用した研修)

開催日時：令和3年4月14日(木)14:00～15:00

場所：オンライン(Zoom) 参加者：42名

テーマ：在宅看取りについて～地域で生きるために～

内容：「訪問看護の看取りの実際」おひさま訪問看護ステーション稗田洋子氏より「現状と課題、事例紹介」報告・グループワーク・発表

参加職種：医師、歯科医師、薬剤師、看護師、リハ職、MSW、ケアマネジャー、デイ職員、施設職員、福祉用具等

内容：1グループ3～4人、ラウンド(ブレイクアウトルーム)ごとに『在宅看取りで思うこと』『在宅看取りと医療介護について思うこと』『理想の在宅看取りとは』を話し合いました。後、全体での意見共有を7職種の方に発表を頂きました。

工夫点：今回は「次第・ワールド・カフェの目的・各ラウンド用紙」を招待メールと共に送付。事前に目的・流れを確認の上ご参加頂きましたので、説明時間を短くグループワークの時間を長く設定する事ができた。グループワークでは、前向きな意見について話し合い、楽しんでご参加頂く事ができました。



各ラウンド用紙まとめ

成果：アンケート一部紹介【問】『研修会参加目的は?』➡在宅看取りについて他職種の方々の意見を聞きたい。在宅看取りの経験が浅いので学びの為。『研修会で得たものは?』➡職種によって視点が違い、非常に勉強になった。他職種のチームワークが不可欠であり、本人・家族と思いを皆で共有する事が大事。等多数。また、『研修会は役立つものでしたか?』では、5段階評価の5・4と高評価。参加者は「学び」があった様子でした。まとめ：訪問看護師から在宅看取りについての報告より学び、グループワークでは他職種・同職種とラウンドテーマについて意見交換する事で、日頃気付かない事・連携の手段重要性等を学ぶ事ができた。オンラインでも充実したグループワークができる事を体験していただく事ができました。

今後の予定：第9回事例検討会では、今回の皆様からのご意見を反映させていただきます。

■第14回医療介護関係者による研修会

開催日時：令和3年5月13日(木)14:00～15:30

場所：オンライン(Zoom) 参加者：46名

テーマ：整形外科領域

～こんなサインを見逃すな～

座長：西区医師会 理事 中神 祐介氏

講演者：あつい整形外科・リウマチ科 院長 厚井 薫氏

内容：講演・質疑応答

参加職種：医師、歯科医師、薬剤師、看護師、リハ職、ケアマネジャー、訪問介護員、あんしんすこやかセンター等



増井センター長

座長：中神祐介氏

講演者：厚井薫氏

内容：講演「在宅支援時に見落としはいいけない 整形外科領域のサイン」では、

1. 高齢者骨折の疫学と特徴
2. 転倒リスクとサルコペニア
3. 高齢者4大骨折の成因
4. 高齢者骨折の予防法

についても具体的に実際に即したお話をいただきました。今回の研修会を通して、見分け方、対処方法、治療方法を学ぶ貴重な時間になりました。また、新型コロナ院内感染防止対策の現状も学びました。

質疑応答：①腰痛・股関節の痛みで動けなくなった時の対応 ②膝・腰痛によりデイ・訪問リハビリを休まれる方 ③骨粗鬆症の自己注射が月に数回抜ける方 ④訪問鍼灸への指示書 ⑤家族が自己流で介護されている方の腰痛防止 ⑥サルコペニア、フレイル、ロコモの違い、について学びました。

整形外科の先生方より分かりやすいご説明をいただき、今後の在宅支援時に役立つ知識を習得することができました。

成果：【アンケートより感想一部紹介】・骨折後再骨折のリスクが高いことがデータ上で理解できた。・骨折と生活習慣病・筋肉量との関係や骨折時の対応方法がよくわかった。骨折が死に直結する為、骨折のリスクを下げよう体操や環境整備が大切と言うこともわかりました。アンケート結果は高評価でした。

まとめ：アンケート「今後の研修会テーマ要望」より研修会計画。講演・質疑応答に対してアンケートに「整形外科医師の立場で誠意あるご対応に大変感謝致します」と。先生方と多職種が繋がった研修会となりました。

今後の課題：緊急事態宣言発令中での研修会。参加したくても参加できない専門職へ、研修会後に報告書をホームページに掲載中です。こんな時だからこそ、研修会開催方法を関係者と検討を行い「動画研修」開催。(裏面へ)

■第15回医療介護関係者による研修

開催日時：令和3年6月17日(木)14:00～15:30
場 所：オンライン (Zoom) 参加者：46名
テーマ：精神科リハビリテーション
講演者：関西青少年サナトリウム

医師 西村暢宏氏

内 容：講演・質疑応答
参加職種：医師、歯科医師、薬剤師、看護師
リハ職、PSW、ケアマネジャー、訪問介護員、通所スタッフ等



(西村先生と研修会の様子)

講演内容：

1. 統合失調症の方の生きづらさ
 2. 障害をもたらす基盤としての脳機能
 3. 共生社会の理念
 4. リカバリーとは
 5. 精神障害者リハビリテーションの基本的な考え方
 6. 精神障害者リハビリテーションのアプローチ
 7. 事例：入院から就職までの多職種の関わり
- 精神疾患の方の場合、精神症状がなくなっても、生きづらさは残る。共生社会の理念では、本人の自己決定に基づくことが最も大切。リカバリーとは「失ったもの」を回復し自立した生活を送ることであり、リハビリテーションとは、リカバリーを目指す事である。と資料を用いながら詳しくご講演頂きました。

質疑応答：①主治医との連携が必要。1人で抱え込まず他者からの支援を得る事。②たのしいと感じる事など丹念に聴き、出来ていることを見つけ、それを少しずつ広げ解決の糸口を見つける。③受診は諦めずに働きかける。④家族や事業所と情報を共有し、目を離さず、細々でもつながっておく。いざという時に手を差し伸べられる事が大事。⑤基本、上手いかないと思ってやっていく事が必要。人は変わらない。⑥サービスを提供する方は、サービスを受ける人からするとパワーを持っている人たち。このことを自覚しておく事が大事。⑦その人の考え、人生を大事にする事が必要。⑧その人の良いところ探しをしておく、お互いにしんどくなりにくい。

成 果：【アンケートより感想一部紹介】

「良いところや強みを見つけて支援に繋げたい。」「リカバリーの理解と地域社会での共存をもっと進めていけるような支援が必要。」「症例を通して多職種で関わることの重要性が学べた。」

まとめ：事例から様々な職種の役割や連携のあり方を学ぶことができました。今後は、実際の事例から具体的な対応方法を学ぶ機会を設けたいと感じました。

■動画研修

開催日時：令和3年6月18日(木)～30日(水)
内 容：2021.5.13開催「第14回医療介護関係者による研修会」講演『在宅支援時に見落としはいけない 整形外科領域のサイン』
講演者：厚井医師講演、動画配信
参加者：54名(初参加：18名 1事業所)

参加職種：医師、歯科医師、薬剤師、看護師
リハ職、MSW、管理栄養士、ケアマネジャー、あんしんすこやかセンター職員、訪問介護員、通所介護員、施設職員、福祉用具事業所、行政等

動画研修開催の経緯：新型コロナウイルスの影響の為、研修会に参加が難しい医療・介護関係者より「研修会の動画配信」の要望が多く寄せられていました。

要望の声について、関係機関・研修会検討小委員会の皆様のご協力により、医療介護サポートセンターで初めて開催する事ができました。



©2013kobe city No.R3-006

成 果：【アンケートより感想一部紹介】

<動画研修参加目的は何ですか？>

整形外科領域の疾患について一度はしっかり学びたいと思ったから。整形外科領域の知識を増やしたため。

<研修会で役立つ学びは何ですか？>

骨折が、死亡のリスクになる事、転倒骨折予防の為、ロコトレを高齢者にすすめたい。骨折と死亡率が関係していたとは知らず大変勉強になりました。

<研修会の感想>

業務上、研修受講が日程的に厳しい事が多々あり参加できませんでした。動画研修であれば、時間のある時にどこでも視聴する事ができ「大変助かるな」と感じました。都合のいいタイミングで動画視聴できるので、日程調整を気にする事なく研修受講できるのはありがたいです。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に有効な対策の一つだと思います。

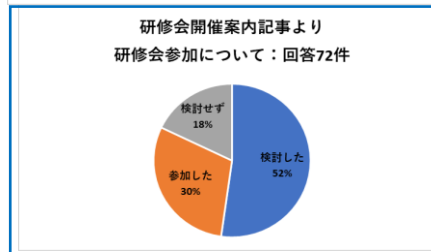
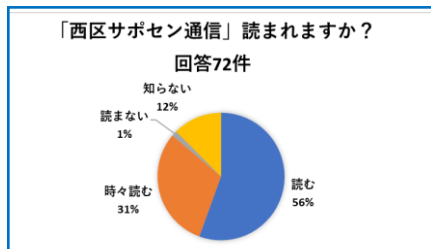
まとめ：アンケートより「研修が大変役立つ・役に立つ」と高評価でした。参加者の都合で視聴できる配信研修により、今まで研修会に参加ができなかった方が「整形外科領域」の知識を得る事ができました。

今後の課題：新型コロナウイルスの影響により研修会開催場所が「会場」から、2021.10.8～「オンライン」へと変化しました。今後、新型コロナウイルス感染症の感染状況により「動画研修」開催については検討を行います。

■「西区サポセン通信」アンケート調査の結果報告

「西区サポセン通信」は2018年11月から年3回発行。2020年4月から、西区内介護事業所関係へ発送を開始しました。

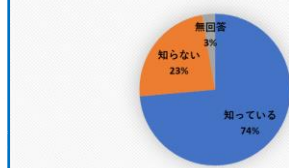
コロナ禍より2020年10月から研修会はオンラインとなり皆様とお会いして直接ご意見を伺う機会がなくなりました。その中で読者の方々へご意見も伺いたく、304か所の介護事業所に初めてアンケート調査を実施しました。72事業所(回収率23%)にご協力を頂きました。アンケート集計をご報告いたします。



©2013kobe city No.R3-006

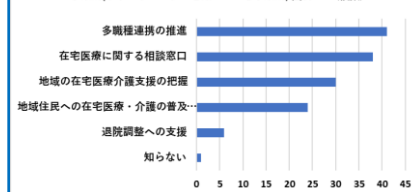


「西区医療介護サポートセンター」を知っていますか？ 回答72件



サポートセンターの機能と役割を知っていますか？

53事業所(サポートセンターを知っている事業所)回答140(複数)



今後取り上げて欲しい内容では、「医師との情報共有がより深まる内容」「以前掲載していた相談の内容・対応」等のご意見を頂きました。ご要望にありました[相談内容対応]については、5号よりコーナーをお休みしておりましたが、今号より『こんなご相談がありました』を掲載します。ご覧ください。

以上が結果となりました。ご協力頂きました皆様には厚く御礼申し上げます。これからも多職種連携に役立つ情報をお届けします。通信へのご意見・ご要望は西区医療介護サポートセンターまでお寄せください。

■西区医療・介護地域資源マップ2021年度版について

この度、医療介護連携ツールとして「西区医療・介護地域資源マップ2021年度版」発行に向けて、西区内の医療・介護事業所の皆様に、医療・介護情報のご提供のご協力をお願いを行っております。掲載事業所様には、情報提供のご協力をよろしくお願いいたします。

只今、掲載事業所様、関係者様へ一日も早くお届けできるように“西区地域資源マップ作成委員会”の方々と、作成に取り組んでいます。暫くをお待ちください。



今年度の掲載事業所は、
西区内：病院、診療所、歯科診療所、調剤薬局、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、あんしんすこやかセンター、訪問リハビリテーション、定期巡回随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、特定施設入居者生活介護、認知症対応型共同生活介護、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護を予定。(下線の事業所は今回初めて掲載)

■このようなご相談がありました

◆訪問診療で他の科の診察が必要な場合はどうなりますか？(介護支援専門員より)

➡訪問診療の医師は、ホームドクターとして全身状態を総合的に診察しますが、専門医の診察が必要な場合は適切に紹介されます。他の科の診療については、必ず訪問診療医にご相談ください。

◆訪問・往診対応してくれる「内科・耳鼻科・皮膚科・眼科」「STがいる訪看」を教えてください(介護支援専門員より)

➡2020年3月発行「西区医療・介護地域資源マップ」に情報掲載しています。ご覧ください。冊子は掲載事業所等へ2020年3月下旬に郵送しております。



©2013kobe city No.R3-006

■オンラインZoom研修会に参加しませんか 「初参加」大歓迎です！

◆オンライン研修参加した事がない方へ「参加手順」の一部をご紹介します。ご覧ください。

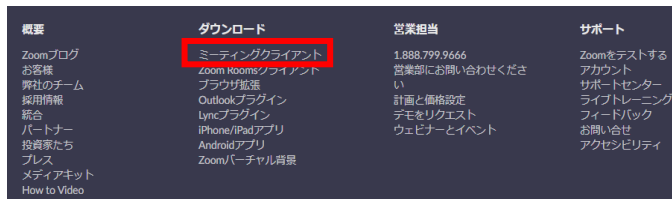
★パソコン編：Zoomをインストールしよう

①Zoom公式ホームページ

(<https://zoom.us/jp-jp/meetings.html>)にアクセスします。



②画面下部の「ミーティングクライアント」をクリックします。



③「ミーティング用Zoomクライアント」の[ダウンロード]をクリックします。



④ 画面上部に「Zoominstaller.exe」が表示されますのでクリックします。

※保存を行う画面が表示された場合は保存場所を指定し[保存]をクリックします。



⑤インストール完了後、Zoomサインイン画面が表示されます。画面右上の×で画面を閉じます。



※Zoom操作が不安な方はご連絡ください。一緒に操作練習を行います。ご連絡お待ちしております。

■研修会開催予定(詳細は右下のQRコードよりホームページをご覧ください。※研修申込ができます)

開催日程	場所	テーマ
8月19日(木) 14:00～15:30	オンライン(Zoom)	事例検討会「在宅看取りにおける多職種連携」(ホームページご覧下さい)
9～10月頃 14:00～15:30	オンライン(Zoom) 予定	ワールド・カフェ♪(仮)「コロナ禍における病院との連携について」 報告者：地域医療連携室
11月頃	オンライン(Zoom) 予定	(仮)「地域における在宅医療・介護との連携について」 座長：西区医師会、パネリスト調整中

西区医療介護サポートセンターは、医療、介護、福祉の関係者からの在宅医療に関する相談への対応や、各種の研修、市民の方への在宅医療・介護に関する普及啓発などの業務を行っています。医療・介護・福祉関係者の皆様、お気軽にご相談ください。

西区医療介護サポートセンター コーディネーター：田中・溝端

受付時間：月～金曜日(祝日・8/12-13・年末年始を除く) 電話：078-797-7830

午前9時～午後5時

FAX：078-797-7831

※研修会の予定・様子はホームページをご覧ください。

西区医療介護サポートセンターホームページQRコード

